



“communication”とは…

児童支援専任 森内 優

令和5年度がスタートして3ヶ月が経とうとしています。4月当初は緊張した面持ちの子どもたちも、最近ではほぐれた表情を多く見かけます。一方で新しい学年やクラスの生活に「慣れて」くるのが、トラブルや問題行動に繋がることもあります。学校ではアンケート調査を実施するなどしながら実態把握に努めております。ぜひご家庭でも、お子様との『コミュニケーション』を大切にしてくださいと思います。

さて、この『コミュニケーション』という言葉、辞書を引いてみると次のように解説されています。

社会生活を営む人間が互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと。(中略)(補説:情報の伝達、連絡、通信の意だけではなく、意思の疎通、心の通い合いという意味でも使われる。)

私はこれを読んだとき、後半の補説部分こそ、まさに「コミュニケーション」であると感じました。英語の“communication”の語源の一つは、ラテン語の“communis”と言われています。この“communis”には「共通の・共有する・分かち合う」といった意味があるそうです。つまり、『コミュニケーション』とは単に「伝える」ということではなく、「話し手と聞き手の双方が共有する」ために行うことだと考えられます。子どもたち同士のトラブルが起きた時にじっくり話を聞いていくと、「(話し手側は)伝えたつもりだったのに…」とか「(聞き手側が)分かったつもりになっていた…」といったことがしばしばあります。もしくはそもそも当事者同士のやり取りではなく、「(別の子が)〇〇って言ってたよ!」とか、「〇〇らしいよ!」といった話がきっかけでトラブルになることもあります。これは子どもに限らず、大人の間でも起こることです。噂話が巡り巡って尾ひれがついて…ということもありますが、これらはコミュニケーションの語源がもつ「共有する・分かち合う」という意味が忘れられてしまっているからかもしれません。

今年度私は、5・6年生の外国語科(英語)の授業を担当しています。授業の中で大切にしたいと思っていることが、まさに『心と心が通い合うコミュニケーション』です。単に「単語をたくさん覚える(語彙を豊かにする)」とか「正しい語順で話したり書いたりする」ということではなく、「心を通わせ合おう」という気持ちを一人ひとりがもつことを目指しています。そして、そうした思いを子どもたちだけでなく、一人でも多くの人に抱いていただけるよう、鳥が丘小学校に関わるすべての方々との日々の“communication”を大切にしていきたいと思っています。